

國家活動の本源 : 論説

著者	杉山, 富槌
雑誌名	龍南會雜誌
巻	3 6
ページ	1 8 - 2 5
発行年	1895-05-07
その他の言語のタイトル	国家活動の本源 : 論説
URL	http://hdl.handle.net/2298/4564

ふにぞや。試に左の一節を讀せば、自ら鼓動の高まるを知らむ。

“Try not the Paset” the old man said;

“Dark lowers the tempest overhead,

The roaring torrent is deep and wide;”

And loud that clarion voice replied,

Excelsior!

嗚呼自奮なる哉、自奮なる哉。志ある者は事遂に成る、涓滴も之を久ふすれば岩石を穿つ、いざや進まん同胞の友よ、國家の要する處は堅城に非らず、鉄壁に非らず人物に在り。

The prosperity of a country depends, not on the abundance of its revenues, nor on the strength of its fortifications, nor on the beauty of its public buildings; but it consists in the number of its cultivated citizens, in its many of educations, enlightenment, and character!—*Lucifer*.

國家活動の本源

杉山 富樫

活眼家は動に在りて靜を忘れず。故に其思想悠遠に、其事業宏大あり。其思想悠遠あるが故に、其謀策千百年に影響し、其事業宏大あるが故に、其餘澤八荒に普及す。徒ら動に狂熱し、乱に奔走して、以て國家百年の大計を畫籌せんとするは、恰も流水に文字を表記せんとするが如し。

國家大に活動する時には、亦た必ず大に平靜ある所あかる可らず。活動と平静とは一にして二、二にして一、瞬間も相離る可らず。猶ほ明鏡の表裏のごとし、物影を寫さる裏面をくれば、如何でか明鏡

の用をなさん。物体は偶然に飛動するものにあらず、必ずや平靜なるものを待つ。地球の回轉は太陽を中心とあすにあらすや。砲烟彈雨の裡に於てすら、嬰兒に熱涙を灑ぎし者ありしにあらやや。動靜必ずしも相撞着するものにあらず。靜は動を待ち、動は靜と相關す。

一滴の玉露も尙ほ宇宙の美を宿す。夫れ然り、國家の大活動、豈に無意義のものならんや。然らば我征清軍の連戰連捷は、果して何をか表示する。幾百千人の鮮血、豈に益なきに灑がれんや。幾億の軍費、豈に要なきに費されんや。或は崩風凍雪に身を曝らし、或は毒霧瘴雨の辛苦を犯し、或は彈丸雨注の危険を進み、或は饑餓用厄に苦む、是れ何が故ぞや。又問ふ、其逆境に甘じ、其熱天凍地を凌ぎ、其危険を怖まざる、又其の強健にして久まきに耐ることに於て、我軍隊と多く優劣を見ざる清國兵は、何が故に戰ふ毎に敗れ、攻むる毎に走るか。又問ふ、彼の亞細亞大陸を三分して其一を有せる龐大國が、其東海に叢爾たる日東國に膺懲の鐵鞭を加へられ、九死一生の狀態に陥れる所以のものは、果して何ぞや。敵を知り又已を知るは、是れ成功する所以の道なり。吾人百年の大計を畫策するに當り、先づ以上の問題に答ふる所なかる可らず。故に予輩は其表裏せる平靜なる方面を觀察せざる可らざる必要を感ず。

我邦は一種特別の國體を有せり、他邦に於て見ることを得ざる道德を有せり。我國民は他國民の摸擬すべからざる性情を有せり、我國民の有せる理想は他の國土に於て發見する能はざる所のものあり。此等の國體、道德、性情及理想は、即ち我邦の文明を陶冶して、特殊の性質を有せるものならしめたり。我邦が今日まで歐米の諸國とその歸趣を異にせる所以のもの、亦た實に此に存す。予輩はこゝに如何にしてろが發揚を來りたるやを討究せざるべし、否既に之を討究する必要もなかるべし。何とぞ

れば我邦の歴史は之を説明して餘蘊なければなり。予輩は唯其の發揚の最も顯著あるものを擧て、以前に列擧したる問題の解釋を與へんと欲す。其の發揚の最も顯著あるものとは何ぞや。曰く、武士道。武士道は實に我邦固有の文明の産物あり、最大産物の一あり。而て我國民の志氣を養成するに與て最も力ありしものは即ち是あり。粉骨碎身、百難を排し、万苦を犯し、生命を犠牲とて理想の爲に盡瘁するは、即ち武士道の精神なり。水火を避けず、困厄に堪へ、不撓不屈あるは、即ち武士道の本領あり。死を怖れずして節を守り、身を殺して仁を爲え、從順よしして命令を重じ、重きを持て、然諾を苟もせざるは、即ち武士道の目的あり。忍ぶべきに忍び、止まるべきに止まり、進むべきに進み、戦ふべきに戦ひ、斷つべきは斷ち、愛すべきを愛し、憐むべきを憐むは、即ち武士道の理想あり。故に我國民の心胸に、剛毅不屈、千辛萬苦を辭せずして粉骨碎身する精神あるものは、即ち是れ武士道の賜ありと謂はざる可らず。凡そ紀律を守ること、命令に從順すること、活潑にして大膽あること、困厄に堪ゆること、剛勇なること、忠實にして節を守ること、磊落あること、危きを見て愈々義に勇むこと、此等の點に於て我國民が優に他國民に凌駕する所以のものは、實は武士道の力に因らずんばある可らず。夫れ然り、武士道何ぞ斯く勢力を有せるや。蓋し是れ我邦特殊の國體、道德、性情及理想の陶冶せる一種の文明の完全に發揮せるものなればあり。

人或は、我武士道を以て彼の歐洲中世に於ける勳爵士に比較す。然れども予輩は之を採らざるあり。源泉異なれば、其流水の成分亦一ならず。勳爵士道の如きは、其の理想寧ろ卑近賤劣にして到底我特殊なる國體、性情の發揮せる武士道の精醇無垢たる要素を包含する能はざるものあり。少くとも事實の上に於て、勳爵士道の實踐躬行に顯はれたる結果は、之を我武士道の勢力に比して、彼の我に如

かざることを斷論せざる可からず。

夫れ武士の精神を日本刀に寓せる時代に於ては、武士道は主として武士の間にその形質を存したりき。武士道の武士道として著しく其光輝を赫如たらしめたるは、實に武士の階級嚴然として社會に其位地を占有せる時代なりき。容易勿汚日本刀、彼等は殆んど之を以て武士道のケアラとなしたりき。明治維新後に至りて廢刀の法令出るに及び、彼等は此のケアラを失ふたる觀ありき。然れども其の本體たる武士道に至りては毫も毀傷を受けず。彼の千百年の歴史に根底を有せる武士道、豈に一朝の變事の爲に湮滅に歸するが如きことあらんや。否、却て時勢に應じ、國情に従うて一種の進化を遂げたりき。吾人は我國民の所謂大和魂に於て之を觀る。勿論大和魂ある語は、其來る決して遠からずとせず。然れども時勢の變遷に應じて、武士道なるもの其名稱を脱却せざる可らざるに至るや所謂武士道の本體は更に大和魂ある名稱の下に包括せらるゝに至れり。故に大和魂ある意義は更に正確なり、更に剴切にあり、更に深遠にあり、又更に歴史的にあり、更に國家的になど、更に普遍的になりたり。其真相果して如何なるものあるやに至りては、容易は口之を言ふ可らず、筆之を表はす可らず。我國民的詩人文豪の中にシェーキスピア、ゲーテ、シルレルを凌駕する大詩人大文豪出るあるも、或は其真相を表示して餘蘊ならしむること能はざるを憾とするあるべし。

舊武士道あるものは、維新前も在りては、専ら武事軍務を専門とせる武士の間にのみ存在し、農工商の間には之を求むるを得ざりき。武士はたゞ廉潔羸落を尚み、武藝文事に心を寄せ、以て藩國の干城たる大任を負ひ、農工商に至りてはたゞ、或は未粗を執りて、勤儉是れ勉め、或は東奔西走權門に出入し、外商と交渉し、銖銖の利これ失はざらんことを勵み、國內に争擾あるも、又は外邦と交渉ある

も、決まて軍務に關係することなく、又之よ關係する必要もあらざりき。然れども明治の時代に於ては、社會の情勢全く其趣を異にするに至りたれば、農民は耕作に従ふて米穀を給するのみある可らず、工匠は建築を擔當するの之にて足らず、商人は敏活に商機を見、四方の有無を通するを以て、其任務了れりとせず能はず。又昔時武士は唯だ武藝にて身を立て、他を顧みざりしかども、今や大に之と異なるものあり。換言すれば、全國民は盡く國民として其任務を負擔せざる可らず。農工商も出て、國家の干城たる責任を荷ひ、軍人も退いて勤儉勉勵、以て實業に従事せざる可らず。之を彼の前代に於て、各業其境域に嚴然たる區劃を置き、他の侵すを容さず、且つ武士と農工商との懸隔廣大かりし時に比すれば、我國民の覺悟大に異なる所からざる可らず。即ち我國民は一樣に武士道の精神と理想とを以て、其の精神理想となさざる可らず。尙更に之を換言すれば、我國民は總て我邦固有の精神たる大和魂の國民とあらざる可らず。此事たる、二年以前も、將た又十年二十年以前も、斯くあらねばならぬ必要に於て、毫も其異なるを見ずと雖も、今後に於て、愈々益々其必要あることを感ずるなり。予輩豈に故らに靡語空言を繰返すことを欲する者からんや。

予輩は說て此に至れば、則ち日勝清敗の果して無意義のものにあらざるを知る。我軍隊が清國の軍隊に對して連戰連勝の位地を得たること、決して偶然にあらざるを知る。何ぞや。即ち我の彼に勝ち、彼の我に敗られしは、是れ即ち我邦の國民的精神が彼の清國の國民的精神に勝らし結果に外ならず。武器の精銳固より其原因あるべき、然れども我軍隊に活潑々たる大和魂をかりしからば、其結果未だ容易に測り知る可らず。我國民が常に軍隊の後援とありて、我外征の軍士をして毫も後顧の憂なきを得せしめたるは、是れ即ち我國民的精神の發動にあらずして何ぞや。又試に征清軍出征後に於ける諸種

の佳話美談を一讀せよ、而して之を他國民の最も誇稱せる逸事に對照せよ。果して如何なる感歎を生ずる。予輩は如何にしても我國民の有せる我邦固有の精神は他に其比を見ざることを斷言せざるを得ざるなり。

然らば如何にして我國民に我邦固有の精神たる大和魂インペイヤを鼓吹して一層其光輝を發揮するに至らしめんか。固より我國民は祖宗幾千年の素養によりて、其の性情に不磨の精神を遺傳し來り、根底既に鞏固たり。而て我邦特殊の歴史と邦土とは、其の境遇に在る我國民をして宇内に特殊の者とあらしめたり。既に遺傳と境遇とに於て東西に比類なき地位を占有す。若し之に加ふるに、我國民の教育をまて良好にして、効果あるものたらまれば、我大和魂即ち我國民の國民的精神は圓滿完全なるに庶幾らん。是に於てか吾人は我國民的教育の大進歩せざる可らざることを感ずるや切なり。國民的教育とは何ぞや。國民的教育とは一般國民を教化育成し、之をして其の國性に適合せしめ、其の個人的性情を國家的性情と相融合せしむること即ち是あり。詳に之を言へば、我國民をして其の遺傳せる我國民的精神を圓滿に成育し、以て之を各種の事業の上に活動するを得せしめ、而て剛健勇壯の精神を有し、廉潔にして而も慎重ある、大膽にして而も細慮ある、俠氣にまて而も勤儉ある、品格を重き、獨立の氣象を有し、公共の精神を尚び、義勇公に奉ずる信念の熾なる國民——略言すれば、我邦固有の精神たる大和魂の國民を養成する、是れぞ國民的教育の目的とせざる可らざる所ある。知るべし、國民的教育は實に國家成立の大本たり、國家隆昌の最大原動力たり、又國家活動の最大本源たることを。

之を聞く、寺内少將威海衛の戦争を目撃して歸朝し、一日民友記者に談話して曰く、

國家の生存する否とは、一に教育の何如に因るもの、予今にして其の眞に然るを覺ふ。威海衛の攻撃に際し、幾多の清國民は山上に在りて面白氣に之を見物し、恰も角力か芝居かを見るが如き有様なりき。予が清兵の逃れたる屯營を覗ふや、一塵だも止めず。聞く、是を清國民が奪掠したる所なりと。又予虎山の軍司令部に在るや、夜眠る能はず。出て街頭を歩す。軍夫あり、衛兵と相語る。軍夫曰く『近頃日本に大和魂が殖ました』と。嗟呼彼の軍夫にして尙ほ此語を言す。予は日勝清敗の偶然あらざるを覺ふ。

亦た以て我征清軍の連戦連勝は。唯た軍隊の精銳勇悍にのみ因るものにあらざるを知るに足る。軍隊の精銳あるは、即ち國民の精銳あるに因る。國民勇悍さればこそ、軍隊の意氣天を衝くの慨あるを。然り而て國民の精銳勇悍は果して何より得來れるか。曰く、教育。軍人戦勝の功績を國民の教育に歸す、其の着眼の謙遜にして而も剴切ある。予輩ただ感嘆に堪へざるなり。本年一月發兌の『フォルトナイト、レジャー』よ某艦長の『海に於ける支那の崩倒』を掲ぐ。中に次の一節あり、曰く、

日本人の今日までの戦争に表はしたる能力は、予輩が賞讃するまでもなし。彼等の剛毅にして機敏の動作ある、而も軍略に長ずる、誠に驚くべきなり。而して水夫兵士の武勇に至りては相平均せり。嗚呼日本人は予輩に向て大なる教訓を與へたり。戦の勝敗は軍装のインチ、速射の効力を以て決すべきにあらず。良好なる武器によりて定むべからず。勝利は實に個人的役務の善育せられ、而もテルソンは爲したる敬虔的精神、命令的秩序の好養せらるゝにあること明あり。而て是れ日本人が日清戦争に於て吾人に教へたる所のものにぞある。

我國民は既に最良なる遺傳と境遇とを有す、之に加ふるに國民的教育によりて、深く且つ遍く我邦固

有の大和魂を鼓吹せば、天下後世に匹敵なき民族とあるを得ん。豈に快からずや。

國家の大活動豈に無意義にして偶然なるものからんや。國家大に活動する時には、亦た必ず大に平靜ある所分かる可らず。我邦が現に非常なる大活動を爲す所以のものは、實に我邦の性情と今日までの教育とに因る。今や我邦は將來に於て大に活動すべき、否大に活動せざる可らざる天運を有せり。故に予輩は今日大に國民的教育の必要と普及とを主張せざるを得ず。蓋之國民的教育は我邦固有の精神を鼓吹する最好最良ある方法なればあり。

雜 錄

岩脈及鑛脈の狀態及生因

(承前)

講師 篠 本次 郎

(2)は非變質岩地 (Non-metamorphic region) に於ける鑛脈及鑛床に於て主として石灰層中に生ず現今世界に於て最も著名の鉛山に於て此種の鑛床に屬するものあり彼の英國カンバーランド及デルビシャー地方に於ける Subcarboniferous 石灰層の如き Westphalia の泥盆紀石灰層の如き Upper Silisia の三疊紀に於ける石灰層の如きは其の例にして尙ほ他の地方に於ても同一の實例尠からず又此の種の鑛床中或地に於ては亞鉛、銅、日計留、高保留登及び銀の鑛石を沈澱するあり又此種の鑛床に屬する鉛鑛は普通變質岩地に鑛脈とありて産する鉛鑛の往々銀分を多量に含有する如きことは稀に見る所なれども其含銀の量以て其鉛價に勝ること敢て珍らしとせず

此等の鑛石は鑛脈をなすものわれども概ね鑛床とありて水準不定の裂罅及び岩室 (Chamber) 中に